HOKKAN REPORT Vol.37

第99期 株主通信

2023年4月1日~2024年3月31日



ホッカンホールディングス株式会社

(証券コード:5902)



代表取締役社長

池田孝資

中期経営計画《VENTURE-5》グループ連結経営指標

営業利益

2026年度

61億円

営業利益率

2026年度

5%超

DEレシオ 2026年度

0.6倍以下

ROE 2026年度目標

6.5%

年間配当額

2026年度

100円以上

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼 申しあげます。

ここに、第99期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)株主通信をお届けいたします。

現下の国内経済は、インバウンド需要が活発化し、各種政策の効果もあって緩やかな回復が続くことが期待されますが、世界的な金融引き締めや中国経済の先行き懸念など海外景気の下振れが、国内景気に影響を与えることが懸念されます。また、中東情勢や物価の上昇、円安傾向の続く為替動向等、先行きが不透明な状況が続くものとみられます。

当社グループを取り巻く環境につきましては、消費者物価の上昇による家計引き締めが懸念される状況下において、サプライチェーン全体の労務費等の上昇を受けた適正な価格転嫁等の対応が求められる難しい局面が続いています。また、少子化の進展により人材の確保がますます困難になる中、価値創出に貢献できる多様な人材の確保・育成、気候変動への対応等、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを求められる厳しい状況が続くものと思われます。

このような状況の中、当社グループは、2023年5月にローリングを行った中期経営計画[VENTURE-5]におけるグループ連結経営指標の達成に向けて取り組んでおります。

このうち株式関係指標「2024年度に増配実現」につきましては、2023年度においてVENTURE-5の計画値を大幅に上回る結果となりましたことから、VENTURE-5期間中の配当政策「連結配当性向35%以上、かつ1株当たり年間配当金45円以上」に基づき、1年前倒しで実現することができました。当社といたしましては、引き続きVENTURE-5施策に取り組み、グループ連結経営指標を達成することで、株価の向上につなげてまいります。

また、各事業分野において成長を続けるためにはその活動が環境・社会と調和する、持続可能なものでなければならないことを強く認識し、これを実現するために気候変動への対応や、従業員の働きやすさなど、事業活動において直接的・間接的にかかわる様々な社会課題の解決にも積極的に取り組んでまいります。

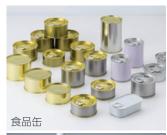
株主の皆様におかれましては、今後ともご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

事業概要

容器事業

容器事業では、食品用缶などの金属容器のほか、PETボトルなどのプラスチック容器や美術缶、スプレー缶といった一般容器などさまざまな容器の製造を行っています。

- ●北海製罐株式会社
- ●昭和製器株式会社
- ●東都成型株式会社









化粧品容器

充填事業

最新鋭の機器で缶飲料やPETボトル飲料の充填を行なっています。大手飲料メーカー各社から委託を受け、自社工場と全く同じ規定スペックで、風味や色合いを均一に保ちながら商品を製造することが可能です。

- ●株式会社日本キャンパック
- ●くじらい乳業株式会社
- 株式会社真喜食品











海外事業

ホッカンホールディングス は日本で培った品質・技術力を 活かしベトナム、インドネシアに も進出。人口の増加や経済発展の 見込まれる市場として有望視さ れている地域にもアグレッシ ブに進出しています。

- ●ホッカン・デルタパック・インダストリ
- ホッカン・インドネシア
- ●日本キャンパック・ベトナム



その他

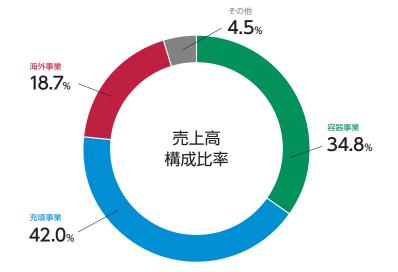
オーエスマシナリー株式会社およびKE・OSマシナリー株式会社は、産業機械や金型等の製作を行っています。株式会社ワーク・サービスは、工場内の運搬作業等を行っており、グループ各社工場において、運搬作業等の要として展開しています。

- ●オーエスマシナリー株式会社
- ●株式会社ワーク・サービス
- KE・OSマシナリー株式会社





事業別の概況



容器事業



売上高 316億50_{百万円}

営業利益 16億74百万円

メタル缶

エアゾール用空缶につきましては、ホビー用塗料の受注が増加しましたものの、主力の殺虫剤関連製品やエアコン洗浄剤等では、値上げによる買い控えの影響により販売が落ち込みましたため、前年を下回る結果となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、水産缶詰では、主にサバやサンマなど 青魚缶詰の販売が市況に連動して低調に推移したことにより、前年を下 回りました。また、農産缶詰においては、スイートコーン缶詰の販売不振 の影響により前年を下回りました。以上により、食品缶詰用空缶全体では 前年を下回る結果となりました。

美術缶につきましては、旅行その他外出の増加により菓子缶や業務用スパイス缶の販売が好調に推移しましたため、前年を上回る結果となりました。

プラスチック容器

飲料用ペットボトルにつきましては、市況に連動した買い控えや暖冬により加温販売向け耐熱ボトルの販売が落ち込みましたものの、値上げの進捗により前年並みに推移しました。プリフォームでは、リサイクル材を使用した小型用の販売が好調に推移しましたため、プリフォームを含む飲料用ペットボトル全体としては、前年を上回りました。

食品用ペットボトルにつきましては、醤油、つゆ市場を含めた調味料市場の販売低迷の影響を受けましたものの、当社ボトルの採用が拡大したほか、PET素材の二重構造バリアボトルの大容量容器の販売が好調でありましたため、前年を上回りました。

また、その他のプラスチック製容器包装につきましては、化粧品・ヘルスケア用では前年を下回りましたものの、農薬・園芸用は好調に推移いたしました。また、バッグインボックスにつきましても、外食産業向けドリンクサーバー用等の販売が増加したことにより、前年を上回る結果となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は316億50百万円(前年度比11.2%減)となりましたものの、前連結会計年度末で廃止いたしました飲料用スチール空缶事業を除いた比較では前年度比4.7%増となり、営業利益は16億74百万円(前年度は営業損失12億89百万円)となりました。

充填事業



売上高 **381**億**58**百万円

営業利益 29億8百万円

缶製品

缶製品につきましては、通常缶は缶コーヒーの販売不振の影響で低調 に推移し、リシール缶(ボトル缶)につきましても値上げの影響等によ り、前年並みに推移する結果となりました。

ペットボトル製品

ペットボトル製品につきましては、大型ペットボトルではお客様による値上げの影響等により2リットル製品は低調でありましたものの、1リットル製品は好調に推移しており、また、小型ペットボトルにつきましては、夏場の記録的な猛暑および残暑の影響により、堅調に推移しましたため、前年並みに推移する結果となりました。

以上の結果、乳製品受託製造および食品の受託製造を含めた充填事業全体の売上高は381億58百万円(前年度比1.6%増)となり、営業利益は29億8百万円(前年度比76.0%増)となりました。

海外事業



売上高 **170**億**4**百万円

営業利益 12億77百万円

インドネシアにおいては、新型コロナウイルス感染症からの回復、および政府による金融政策の効果、家計消費の堅調な伸長等に支えられ、経済は安定した成長を維持しています。ホッカン・デルタパック・インダストリ社では、原材料価格の下落に伴い、主力製品であるカップの販売価格も下がりましたが、旺盛な需要を背景に積極的な営業活動を行った結果、プリフォームやカップの販売が好調に推移し、前年を上回る結果となりました。また、ホッカン・インドネシア社では、主要なお客様からの受注が堅調に推移しましたため、前年を上回る結果となりました。

ベトナムにおいては、日本キャンパック・ベトナム社では、清涼飲料市場は依然として厳しい状況であり、前年を下回る結果となりました。

以上の結果、海外事業全体の売上高は170億4百万円(前年度比10.0%増)となり、営業利益は12億77百万円(前年度比64.9%増)となりました。

その他

売上高 **41**億**20**百万円

営業利益 3億68百万円

機械製作事業では、液体小袋充填機の販売は好調に推移しましたものの、産業用機械等の大型案件の受注が減少したことにより、前年を下回る結果となりました。

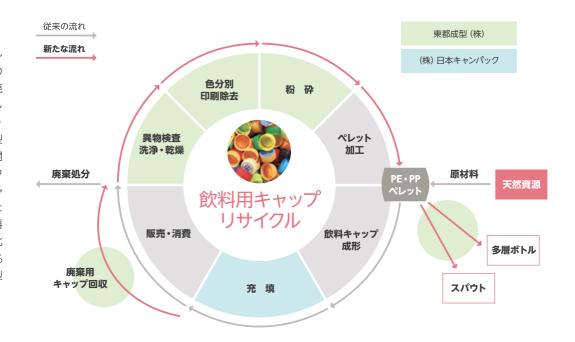
以上の結果、化粧品等製造販売、工場内運搬作業等受託を含めたその他売上高は41億20百万円(前年度比17.7%減)となり、営業利益は3億68百万円(前年度比442.3%増)となりました。

サステナビリティ・トピックス

プラスチックの環境負荷低減への取り組み(サーキュラーエコノミー)

飲料用キャップリサイクル

お客様である飲料ペットボトルの充填工場とホッカングループの(株)日本キャンパックの工場で廃棄される飲料用キャップを回収して再生樹脂に加工し東都成型(株)の製品に利用しています。東都成型(株)と日本キム(株)が共同して開発した化粧品パウチ容器のスパウト(注ぎ口)や、ダイレクトブロー多層成形ボトルの中間層に使用した製品開発に繋げております。この再生樹脂は、石油由来原料の樹脂と比較すると、CO2の排出量を約58%削減することができます(東都成型(株)試算による)。



〈飲料用キャップ由来の再生樹脂 製品事例〉

化粧品用パウチ容器

東都化工(株)*にて製造するこのパウチ容器用スパウトには、再生樹脂を97%使用しております。 **東都成型(株)の子会社

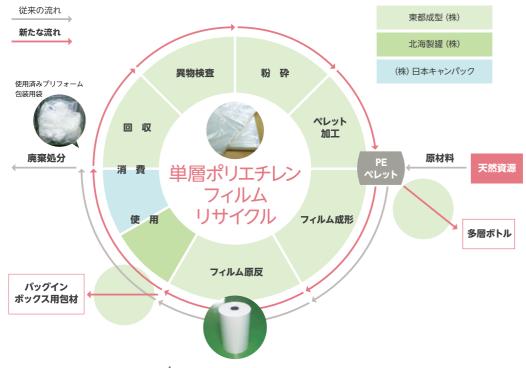
シャンプー・コンディショナー・リンスインシャンプーボトル

ダイレクトブロー多層成形ボトルの中間層に再生樹脂を配合しております。内層および外層にはバイオプラスチックを使用しております。



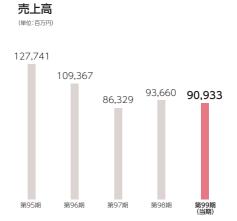
単層ポリエチレン フィルムリサイクル

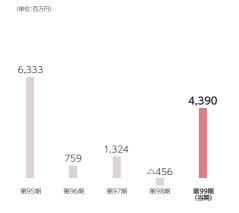
飲料充填工場の(株)日本キャン パックへ納入されるプリフォーム (ペットボトルに成形するための半 製品資材) は輸送する際の緩衝梱包 材として、単層ポリエチレンフィル ムから成る袋を使用しております。 この袋は、プリフォームを使用した 後には廃棄する、いわゆるシングル ユースプラスチックとなっていまし た。この袋を回収して再生樹脂に加 エし、プリフォーム包装用の袋とし て再利用する水平リサイクルを実用 化しました。またバッグインボック ス用包材に再利用する取り組みや、 ダイレクトブロー多層成形ボトルの 中間層に混合するなど、様々な製品 への展開を進めています。

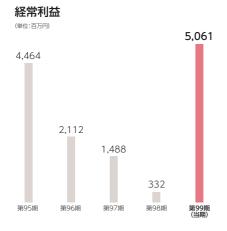


主要財務指標(連結)









親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)

1株当たり当期純利益

(単位:円)

営業利益

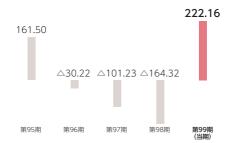
総資産

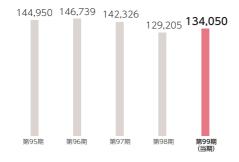
(単位:百万円)

ROA

(単位:%)

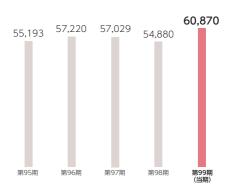






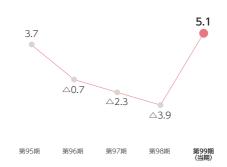
純資産

(単位:百万円)



ROE

(単位:%)





△0.3

第95期 第96期 第97期 第98期 **第99期** (**当期**)

△0.9

△1.6

		第95期	第96期	第97期	第98期	第99期(当期)
売上高	(単位:百万円)	127,741	109,367	86,329	93,660	90,933
営業利益	(単位:百万円)	6,333	759	1,324	△456	4,390
経常利益	(単位:百万円)	4,464	2,112	1,488	332	5,061
親会社株主に帰属する当期純利益	(単位:百万円)	1,968	△368	△1,234	△2,007	2,719
1株当たり当期純利益	(単位:円)	161.50	△30.22	△101.23	△164.32	222.16
総資産	(単位:百万円)	144,950	146,739	142,326	129,205	134,050
純資産	(単位:百万円)	55,193	57,220	57,029	54,880	60,870
ROE	(単位:%)	3.7	△0.7	△2.3	△3.9	5.1
ROA	(単位:%)	1.4	△0.3	△0.9	△1.6	2.0

株主優待制度のお知らせ

毎年3月31日(基準日)において100株以上の当社株式を継続して1年以上保有される株主様*に対し、当社グループの容器に入った缶詰等を年1回、以下のとおり贈呈いたします。

※基準日、基準日の前年の9月30日および同3月31日の当社株主名簿のすべてに、同一株主番号で 100株以上の保有が記載または記録されている株主様をいいます。

制度の内容

ご優待品はグループ製品の詰合せや社会貢献活動に対する寄付など5つのコースからお選びいただけます。

所有株式数	100株以上 1,000株未満	1,000株以上 2,000株未満	2,000株以上
ご優待内容	3,000円相当の	6,000円相当の	8,000円相当の
	缶詰詰合せ等	缶詰詰合せ等	缶詰詰合せ等

2024年3月末日を基準日とする株主優待コース内容の例(各3,000円相当)







食品缶セット

お菓子缶セット 食品・お菓子缶セット

株式の状況 (2024年3月31日現在)

発行可能株式総数 48,000,000 株 発行済株式の総数 13,469,387 株 キ 主 数 19,933 名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,126	8.93
日本生命保険相互会社	654	5.19
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	614	4.87
株式会社みずほ銀行	594	4.71
ホッカンホールディングスグループ取引先持株会	412	3.27
農林中央金庫	400	3.17
東京海上日動火災保険株式会社	361	2.86
三菱UFJ信託銀行株式会社	247	1.96
福岡パッキング株式会社	215	1.71
株式会社三菱UFJ銀行	208	1.65

- (注1)持株数は千株未満を切捨てて表示しております。
- (注2)当社は自己株式849,112株を所有しておりますが、上記大株主からは除いております。
- (注3)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

会社概要 (2024年3月31日現在)

商			号	ホッカンホールディングス株式会社 HOKKAN HOLDINGS LIMITED
本			社	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号 日本橋三井タワー TEL03-5203-2680
設			立	1950(昭和25)年2月1日 (創立 1921(大正10)年10月23日)
資	資 本 金		金	110億8,652万4,995円
従	業	員	数	62名(連結 2,231名)
事	業	内	容	●各種空缶・容器の製造
				●飲料受託充填
				●産業機械・金型製作 他

役員 (2024年6月27日現在)

代表取締役社長	池田 孝資	常勤 監査 役	石川 宏司
取締役専務執行役員	佐藤 泰祐	監 査 役	渡邉 基樹
取締役専務執行役員	多田 秀明	監 査 役(社 外)	鈴木 徹也
取締役常務執行役員	武田 卓也	監 査 役(社 外)	田島 正広
取締役常務執行役員	砂廣 俊明		
取締役(社外)	藤田 晶子		
取締役(社外)	耕田 一英		
取締役(社外)	渡邉 敦子		
取 締 役(社 外) ※新任	古川 尚史		

HOKKAN GROUP

ホッカンホールディングス株式会社

〒103-0022

東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー 13階 TEL 03-5203-2680 (代表)

URL: https://hokkanholdings.co.jp/

株主メモ

事業年度		毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会		毎年6月		
基準日	定時株主総会 期末配当 中間配当	毎年3月31日 毎年3月31日 毎年9月30日		
上場証券取引所		東京証券取引所 札幌証券取引所		
公告方法		電子公告により行う (https://hokkanholdings.co.jp/) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。		
株主名簿管理人および 特別□座の□座管理機関		東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
株主名簿管理人 事務取扱場所		東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 1 号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
郵便物送付先		〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
電話照名	会先	◎ 0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00-17:00(土日祝日を除く)		
インターネット ホームページURL		https://www.smtb.jp/ personal/procedure/agency/		





